



シンガポール学会開会セレモニー

1973年 東大病院受付に開原氏が責任者を務めた
コンピュータシステムが導入国際医療情報学連盟 (IMIA) 会長
就任時の開原氏

かい ばら しげ こと
故 開原 成允 Shigekoto Kaihara

国際医療福祉大学 副学長・大学院長
Vice President, Dean of Graduate School,
International University of Health and Welfare

1961年東京大学医学部卒業。東京大学医学系大学院第一臨床
医学博士課程修了。東京大学医学部助教授を経て東京大学医学
部教授。国際医療情報学連盟 (IMIA) 会長、日本医師会医療シ
ステム研究委員会、日本医療情報学会 (JAMI) 会長などを歴任。定年
退官後、国立大蔵病院長、医療情報システム開発センター理事長、
国際医療福祉大学大学院長、東京大学名誉教授。国際情報処理
連盟学術賞、日本医師会最高優功賞受賞。

推薦者 北島 政樹 国際医療福祉大学 学長
佐藤 禎一 国際医療福祉大学 学事顧問

開原成允氏は2011年1月12日にご逝去されました。故人の業績を称え、追悼の意を表します。

開原成允氏は、優れた医学教育者であるが、その活動は常に新しい分野を実践と共に切り開いてきた点で他に類をみない。その第二は医療情報学であり、第一は医療管理学である。この二つの領域は、開原氏が研究を始めた頃には、学問になりうることは考えられておらず、医学関係者の関心は低かった。しかし、現在ではこの二つの領域が医療の情報化に大きな影響を与えている。

開原氏は、1973年に東京大学医学部附属病院にコンピュータが導入された際、実質的な責任者としてその研究開発に携わり、医療情報学の基礎を築いた。病院職員から大きな反対を受け、数年に亘り職員と厳しい交渉が続いたが、研究開発の成果は1993年に新築された外来棟のシステムに結実し、当時日本で最も優れた病院情報システムとして注目を集め、東大病院の患者の診療の向上に大きく貢献した。

その後、開原氏はこうした開発研究の過程において医療情報学を体系化する必要

を感じ、日本医療情報学会の設立に尽力すると共に、国際医療情報学会の活動に日本代表として参加し、1980年には日本へ第3回の国際学会を誘致した。1986年から1989年にかけて、46カ国が加盟する国際医療情報学連盟の会長を務め、世界の学会をリードした。また、1994年からは日本医療情報学会長として、この学会の日本医学分会科会への加盟を実現した。

これらの活動を経て、開原氏は膨大な医療情報を流通させる「大学医療情報ネットワーク」(通称・UMIN)を創設した。1988年に稼働を開始したUMINは、当初は国立大病院間を結ぶネットワークであったが、今ではほとんど全ての医学関係者がUMINを利用していている。例えば、学会の抄録の作成、臨床試験のデータ収集や臨床研修の評価もUMINを使って行われている。UMINは、開原氏の日本の医学界における最大の成果であるといえる。

この他にも、社会的活動として文部省の

21世紀の医学と医療の有識者会議で医学教育の将来への提言にかかわり、厚生省では、1999年医療の情報化に関するグランドデザインを検討する会の座長として、日本全体における医療の情報化のあり方を提言した。また、介護保険に関する介護度の決定方法、診療情報のデータベースの提言など、日本の医学教育や医療福祉に影響を与えた活動は多岐に亘る。

開原氏の業績は、医学・医療にとって非常に重要でありながら、それまで人々に認識されていなかった領域を、実践によって切り開いたことにある。さらに、学問として確立を果たしたことで、研究者の教育に大いに寄与している事から、まさに日本の医療情報学と医療管理学の父と呼ぶべき存在である。自身の優れた思考によって、さらに発展され得たであろう氏の業績が、後進によつて受け継がれていくことを願って止まない。生前に氏が残した輝かしい業績は、末永く人々の記憶に留められるものである。

日本の医療情報学・医療管理学の父